

API® Preamp

APIの象徴的な212Lプリアンプのサウンドにより、ヒット作と同じカラー、トーンを忠実に再現。

Fleetwood MacのRumoursからradioheadのIn Rainbowsまで、API Preampは50年以上に渡り、そのパンチ、存在感、カラーを多くのヒットアルバムに注入してきました。

大ヒット作をレコーディングしたマイクプリアンプの透明感、キャラクター、音楽的で複雑なトーンを、Unison搭載のシンプルなプラグインで簡単に追加することができ、Apolloのオーナーに最適です。

新機能：

- 伝説的なクラスAのAPI 212L mic preampの世界で唯一本格的なプラグインエミュレーションに、APIのフラッグシップコンソールであるVisionの機能が追加されています。
- Apolloインターフェイスを使用し、DSPの使用量を軽減し、伝説的なAPI preampをリアルタイムに使用してレコーディング可能です。
- 複雑なノンリニアサーキットの動作を忠実にエミュレートすることにより、音楽的なパンチ、クラリティ、キャラクターをトラックを加えることができます。
- Unison™テクノロジーにより、API PreampプラグインからApolloマイクプリアンプのゲインステージとインピーダンスを直接コントロール可能になります。

Unisonでレジェンドをキャプチャー

クラシックなAPI 212Lプリアンプのフォワードアティチュード、ローエンドのパンチ、細部まで行き届いた温かみのあるハイエンドは、ボーカルやドラムなどに豊かな個性を持った満足のいくトーンを与えることで有名です。UAの画期的なUnisonテクノロジーを採用したAPI Preampプラグインは、APIのプリアンプサーキットを完璧にエミュレートした唯一のプラグインであり、ビンテージハードウェアのゲインステージの“スイートスポット”やノンリニアの回路動作を実現しています。その秘密は、API PreampプラグインからApolloインターフェイスのデジタルコントロール可能なマイクプリアンプへのUnisonによる双方向のコントロールとコミュニケーションにあります。

トラックに伝説的なアルバムのサウンドを注入する

API Preampプラグインは、オリジナルのハードウェアと同様に、特徴的なパンチと鮮明度を加えます。さらに、マイク/ライン・スイッチ、専用カットフィルター、-6 dBラインPADなど、APIのフラッグシップであるVision Consoleに搭載されている機能を備えています。API PreampをApollo ConsoleソフトウェアのUnisonスロットやLUNAチャンネルストリップに挿入するだけで、ボーカル、アコースティックギター、ドラムなどに、APIならではのヒット作に使われたサウンドを加えることができます。

あらゆるソースにパンチやキャラクターを追加する

もちろん、API PreampプラグインはApolloインターフェイス・ユーザーだけのものではありません。UADハードウェアをお持ちの方は、API Preampプラグインのパンチとカラーを利用してパソコン内だけでミキシングやトーンシェーピングを行うことができます。DSPの使用量が少ないため、API Preampプラグインインスタンスを複数のチャンネルに配置して、お気に入りのDAWをクラシックなAPIアナログデスク・サウンドに変身させることができます。



API Preamp

API Preampのコントロール

Unison™ によるインテグレーション

API Vision Channel Strip Collectionプラグインは、はUniversal Audio の Apollo オーディオ・インターフェイスのマイクプリアンプ・ハードウェアと統合した動作を行うためにUnison テクノロジーを採用しています。With Unison を使用することで、Apollo の超クリアなマイクプリアンプのサウンドは、エミュレートされたプリアンプのインプットキャラクター、機能とサウンドのすべてを再現します。



注: Unison は、プラグインが ApolloのConsole、またはLUNA アプリケーション内の専用のUNISONインサート・スロットで使用されている場合にのみ有効になります。Unison に関する詳細については、ApolloソフトウェアマニュアルのUnisonの章を参照してください。

Unisonの使用時、ハードウェアプリアンプはモデリングしたプリアンプの物理的な入力インピーダンスに適応します。UAのクリアなアナログアンプと組み合わせると、クリーンからクリッピングまで幅広いプラグインのゲインとトーンのレンジを提供し、音楽的なスイートスポットを広げることができます。

リアルなタンデムコントロール

Unisonは、ApolloオーディオインターフェイスのデジタルコントロールをしているパネルハードウェアとUADプラグインのインターフェイスとの両方を使用して、プラグイン設定をシームレスにインタラクティブコントロールが可能です。すべてのプリアンプコントロール(ゲイン、カットフィルター、パッド、フェイズ)をミラーリングし、どちらからもコントロールすることが可能です。プリアンプ・コントロールは、ゲインレベルやクリッピングなどがも出稟議したプリアンプとまったく同じ相互作用で反応します。

ハードウェア・インプットインピーダンス

すべてのUnison マイクプリアンプは、可変インプットインピーダンスを装備しており、Unison プラグインによって、マイクとプリアンプ抵抗の間の相互作用を物理的に切り替えることができます。このインピーダンスの切替えは、物理的にApolloのプリアンプがエミュレートしているユニットのインプットインピーダンスと一致させることができ、マイクのサウンドに大きな影響を与えます。電氣的な負荷はA/D変換前の入力で発生するため、オリジナルのハードウェアに忠実に行われます。

タクティカル・ゲインステージング

Apolloのハードウェア・プリアンプノブは、ゲインステージモードを使用してUnison プラグイン内のすべてのゲインと使用可能なレベルパラメーターを独立してコントロールすることができます。調整中のゲインステージは、物理的なハードウェアノブを使用してコントロールできるため、ハードウェアのノブからゲインレベルや関連するカラーを調整し、ソフトウェアのインターフェイスに触れることなく正確な物理的に触れてコントロールすることができます。



Unisonゲインステージモードの時に色違いで表示されるアウトライン化されたゲインコントロール

Unisonによるインタラクションについて

コントロールの説明の中には、「Unison Interaction」の見出しで始まり、左側に「Unison」のアイコンが表示されているものもあります。これらのセクションの説明は、プラグインがConsole、またはLUNAアプリケーション内のApolloプリアンプチャンネル上の専用UNISONインサートに配置されている場合にのみ適用されます。プラグインが標準インサート(非Unisonインサート)やDAW内で使用する場合、これらの説明は適用されません。

インプットセレクト

インプットボタンは、マイクとラインの入力ゲインノブを切り替えます。ボタンを押して使用する入力の選択を切り替えることができます。

ヒント: インプットセレクトボタンLED(マイク/ラインゲインノブの左側)をクリックしてインプットを選択することができます。

アクティブ(使用中)の設定は、インプットゲインノブの横にあるLEDで示されます。マイクインプットが使用されている場合は、マイクゲインノブの左側にある赤いLEDは点灯します。ラインインプットが使用されている場合は、ラインゲインノブの左側にある緑色のLEDが点灯します。

Unisonによるインタラクションについて

ソフトウェアとハードウェアのコントロールはミラーリングされており、プラグインインターフェイスない、コンソール/LUNAソフトウェアコントロール、Apolloのハードウェアボタン(Apolloラックマウントモデルではマイク/ライン、Apollo Twinモデルではインプット)を使用して変更することができます。

Micゲイン

マイクインプット信号に適用するゲインの量を調整するときに使用します。調整可能な範囲は、30dB~65dBです。デフォルト値は40.5dB(ユニティゲイン)です。

ヒント: プラグインの左上にあるAPIロゴをクリックすると、マイクゲインをデフォルト値に戻すことができます。

Unisonによるインタラクションについて

ゲインステージモードでインプットセレクトがマイクに設定されている場合、Apolloのハードウェアプリアンプノブを使用してこのパラメーターを調整することができます。

Lineゲイン

ラインインプット信号に適用するゲインの量を調整するときに使用します。調整可能な範囲は、0dB~12dBです。デフォルト値は0dB(ユニティゲイン)です。

使用可能なラインゲインレンジは、API Visionコンソールの専用ライン入力機能が採用されており、オリジナルの212Lハードウェアモジュールにはありません。

Unisonによるインタラクションについて

ゲインステージモードでインプットセレクトがラインに設定されている場合、Apolloのハードウェアプリアンプノブを使用してこのパラメーターを調整することができます。

パッド

パッドはプリアンプのゲインレベルが低いときにオーバーロードによる歪みが発生した場合信号のレベルを下げるために作動させることができます。赤いLEDが点灯するとパッドが作動していることを示します。パッドボタンまたはLEDをクリックして設定を切り替えることができます。

Micパッド

マイク入力時にパッドを有効にすると入力信号のレベルが20dB減衰(低下)します。

Lineパッド

ライン入力時にパッドを有効にすると入力信号のレベルが6dB減衰(低下)します。ラインパッドは、API Visionコンソールの専用ライン入力機能が採用されており、オリジナルの212Lハードウェアモジュールにはありません。

Unisonによるインタラクションについて

- ライン入力を選択されている場合、パッドは使用できません。
- ソフトウェアとハードウェアのコントロールはミラーリングされており、プラグインインターフェイス内、Console/LUNAソフトウェアコントロール、またはApolloのハードウェアボタンで変更することができます。

フェイズ

フェイズ (ø) ボタンは、信号の極性を反転させます。緑色のLEDが点灯しているときは極性が反転しています。ボタンをオフ(消灯)にすると通常の極性になります。

フェイズインバート(極性反転)は、1つのソースを複数のマイクでレコーディングする際にフェイズコンフリクトを軽減するときに役立ちます。

Unisonによるインタラクションについて

ソフトウェアとハードウェアのコントロールはミラーリングされており、プラグインインターフェイス内、Console/LUNAソフトウェアコントロール、またはApolloのハードウェアボタンで変更することができます。

カットフィルター

このボタンは、6dB/オクターブのスロープを持つ50Hzローカットフィルターをオンにすることができます。このランブルフィルターは、API Visionコンソールの専用ライン入力機能が採用されており、オリジナルの212Lハードウェアモジュールにはありません。

Unisonによるインタラクションについて

ソフトウェアとハードウェアのコントロールはミラーリングされており、プラグインインターフェイス内、Console/LUNAソフトウェアコントロール、またはApolloのハードウェアボタンで変更することができます。

メーター

LEDによるVUメーターは、プリアンプ出力の信号レベルを表示します。

アウトプット

このコントロールは、プラグインの出力に-24 dB ~+12 dBの間でクリーンなゲインを提供します。デフォルト値は0 dBです。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックするとアウトプットを0dBの位置に戻すことができます。

Unisonによるインタラクションについて

ゲインステージ・モードでこのパラメーターが選択されている場合、Apolloのハードウェアプリアンプ・ノブはアウトプットノブの調整に使用することができます。

パワー

パワースイッチが押し込まれ、LEDが点灯しているときは、プラグインがアクティブな状態です。パワーボタン、またはLEDをクリックするとオフに切り替わります。

ボタンがオフの場合、プラグインプロセッシングが無効(オフ)になり、UAD DSP負荷が軽減されます(DSP LoadLockが有効になっている場合を除く)。



API Vision Consoleへのすべての視覚的および聴覚的な参照、APIの商標のすべての使用は、Automated Processes, Inc. からの書面による許可を得て行われています。Paul Wolff、Larry Droppa、Todd Humora、Jeffrey Richardsに特に感謝を表します。